

はじめに

このたびは、「McAfee.com ウイルススキャンオンライン」をご利用いただきありがとうございます。

インターネットが生活の一部となっている現在、お使いの大切なパソコンを守るウイルス対策は欠かせません。また、日々発見される新種のウイルスは悪質で巧妙。高度な技術で作られたものが多くなり、大切なパソコンのデータを破壊する非常に危険な物となりつつあります。そのウイルスを駆除するウイルス対策ソフトも高度な技術と、最新のデータが必要となります。

「McAfee.com ウイルススキャンオンライン」は、長年のウイルス対策ソフトを開発してきたMcAfeeの経験と高い技術力によるトップクラスのウイルスの検知、駆除の実績と信頼性を誇り、安心してお使いいただけます。また、難しい設定や手間のかかるアップデート操作などは必要なく、パソコン操作に不慣れな方でも安心してお使いいただけます。

早速、お使いのパソコンを「McAfee.com ウイルススキャンオンライン」でウイルスの攻撃から守りましょう。

ご確認ください

- 旧バージョンの「McAfee ウイルススキャン」シリーズや「鉄壁」シリーズは、「McAfee.com ウイルススキャンオンライン」と異なる製品です。「McAfee ウイルススキャン」シリーズや「鉄壁」シリーズをご利用のお客様は、動作不具合の原因となりますので、「McAfee.com ウイルススキャンオンライン」をインストールする前に、必ずこれらのウイルス対策ソフトを削除してください。詳細に関しては、「ユーザーズガイド」のインストール方法に記載しております。
- 本文中では、マカフィー・ドットコム製品名を省略して記載しております。
 - ・「McAfee.com ウイルススキャンオンライン」
→「ウイルススキャンオンライン」
 - ・「McAfee.com パーソナルファイアウォールPlus」
→「パーソナルファイアウォール」
 - ・「McAfee.com プライバシーサービス」
→「プライバシーサービス」
 - ・「McAfee.com セキュリティ・センター」
→「セキュリティ・センター」
- お客さまのお使いの環境によって、本電子マニュアルと画面が若干異なる場合があります。
- インストール方法、アンインストール方法に関する詳細は、ユーザーズガイドをご覧ください。

目 次

はじめに	1
第1章 ウイルススキャンオンラインをお使いになる前に	4
動作環境	4
インターネットブラウザの設定を確認する	5
「ウイルススキャンオンライン」の機能	7
第2章 「セキュリティ・センター」で、お使いのパソコンの安全度をチェックする	9
2-1 「セキュリティ・センター」のメイン画面の使い方	9
2-2 安全度の確認と対処方法	12
2-3 最新情報の有無を確認する	13
2-4 アップデート通知方法を変更する	15
2-5 「ウイルススキャンオンライン」の有効・無効の切替え	16
2-6 製品の使用期限と継続使用の方法	17
[コラム] その他のMcAfee.com製品について	18
第3章 「ウイルススキャンオンライン」でウイルスからパソコンを守る	19
3-1 自動的にファイルのウイルスチェックを実行させる	19
3-2 指定した場所のウイルスをスキャンする	21
3-3 緊急起動用Rescue Diskを作成する	24
第4章 「ウイルススキャンオンライン」でウイルスが発見されたら	27
4-1 ウイルスを駆除または削除する	27
4-2 ウイルス駆除できなかった場合の対処	29
第5章 世界のウイルス感染状況をチェックしよう	31
5-1 ウイルス感染状況をサーバーに送信する	31
5-2 世界のウイルス感染状況を確認する	33
第6章 「ウイルススキャンオンライン」のよくある質問	35

「ウイルススキャンオンライン」を お使いになる前に

動作環境

- 機種**—メーカーサポートのPC/AT互換機（DOS/V機）、NEC PC98-NXシリーズ
※本製品はPC9821シリーズには対応しておりません。
- OS**—Windows XP*(Home Edition/Professional)
Windows Me/98/98(Second Edition)/95
Windows 2000 Professional *
* Administrator権限でご使用ください。
- CPU**—i486以上(Pentium以上推奨)
- メモリ**
Windows Me/98/98 (Second Edition)/95 32MB以上のメモリ (64MB以上推奨)
Windows XP/2000 64MB以上のメモリ (128MB以上推奨)
- ハードディスク (インストールするために必要な容量)**
ハードディスクの空き容量 10MB以
- ディスプレイ**—640×480以上の解像度、256色以上
- その他**—CD-ROM読み込み可能なドライブ
インストール、アップデートを行うためには、インターネットへ接続できる環境が必要となります。
Internet Explorer 5.0*以上
※Internet Explorer 3.X から Internet Explorer 5.0へアップグレードする場合は、直接 (3.X→5.0) ではなく、Internet Explorer 4.Xを経て (3.X→4.X→5.X) 順にアップグレードしてください。

McAfee.com ウィルススキャンオンラインはASP方式で常に最新のプログラムを提供しております。それに伴うマニュアルの最新版は以下の弊社ホームページから入手することができます。また、サポート情報もあわせてご確認ください。

<http://www.sourcenext.info/mcafee/support.html>

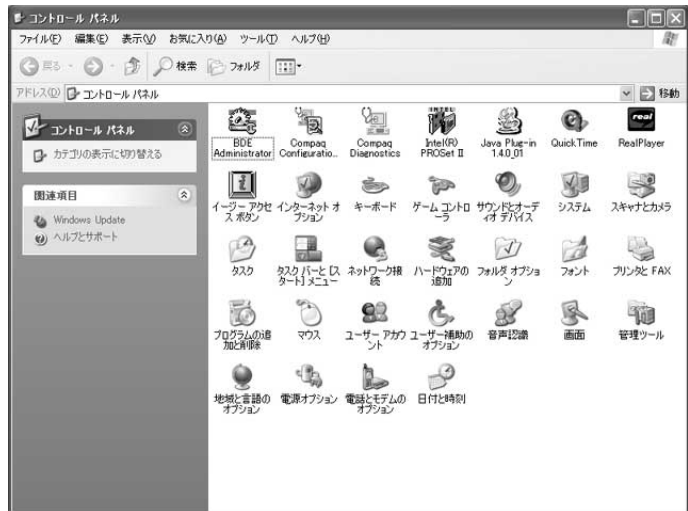
インターネットブラウザの設定を確認する

「ウイルススキャンオンライン」をお使いいただく前に、お使いのブラウザのセキュリティ設定を確認する必要があります。ここでは、Internet Explorer 6.0の設定の確認・変更方法をご説明します。

- ① [スタート] ボタンから [コントロールパネル] を選択します。



- ② [クラシック表示に切り替える] をクリックします。
- ③ [インターネットオプション] アイコンをダブルクリックします。



補足

セキュリティ設定のスライダーが表示されない場合は、[既定のレベル] ボタンをクリックして表示させ、設定を行なってください。

- ④ [インターネットのプロパティ] 画面が表示されます。[セキュリティ] タブをクリックします。
- ⑤ [インターネット] が選択されていることを確認します。[このゾーンのセキュリティのレベル] のスライダーを [中] にして、[OK] をクリックします。



- ⑥ [コントロールパネル] 画面の右上の [×] をクリックして閉じます。

「ウイルススキャンオンライン」の機能

「ウイルススキャンオンライン」はインストールするだけで、お使いのパソコンを悪質なウイルスから守ります。ここでは簡単に「ウイルススキャンオンライン」がどのようにウイルスからパソコンを守っているかをご説明します。

■こんなときにデータをチェックします。

以下の操作を行なうと、ウイルスに感染していないかどうかデータをスキャンしてチェックすることができます。

- ・フロッピーやCD-ROMなどのメディアから、お使いのパソコンにデータをコピーするとき
- ・インターネットからデータをダウンロードするとき
- ・さまざまなソフトを起動するとき

■「ウイルススキャンオンライン」の特徴

- ・手動で特定のボリュームをスキャンし、ウイルスに感染していないかどうか完全にチェックすることができます。
- ・新しいウイルスでも検知することができるヒューリスティックスキャン技術を使用できます。
- ・感染したデータからウイルスを駆除することができます。
- ・駆除できなかったデータは、削除する前に一旦安全な隔離場所に移動することができます。
- ・コンピュータがウイルスに感染して起動しなくなってしまった場合に使う、「Rescue Disk」(レスキューディスク*)の作成が簡単にできます。
*レスキューディスクはNTFSフォーマットには対応しておりません。
- ・圧縮ファイルにも多数対応しています。eメールなどで送られてくる圧縮ファイルも安心して解凍できます。

対応ファイル形式

ARC, ARJ, CAB, CryptCOM, Diet, GZIP, ICE, LHA/LZH, LZEXE, MS, PKLITE, RAR, TAR, TeleDisk, ZIP/WinZip

- ・通常、ウイルス検知能力が上がると、スキャンのスピードは落ちますが、「ウイルススキャンオンライン」は独自の技術により、スピードもアップしています。
- ・バージョンアップするたびに、メモリやハードディスクの増設をお願いする傾向にありましたが、「ウイルススキャンオンライン」は少ないリソースの消費で使用できます。

ウイルス対策について

ウイルス対策として以下のことを心がけることで、ウイルス感染をさらに予防することができます。ウイルス対策ソフトを導入したからといって安心せず、対策を行なってください。

- WindowsやInternet Explorerのセキュリティパッチを適用する。
- 「ウイルススキャンオンライン」等のウイルス対策ソフトを常に最新へする。
- メールのプレビュー表示は、無効にする。
- 英語メールなどの怪しいメールは開かない。
- 怪しい添付ファイルは、開かない。

なお、WindowsやInternet Explorerのセキュリティパッチのアップデート情報は、「セキュリティ・センター」に表示されるようにしてありますので、定期的を確認し、セキュリティパッチがありましたら、マイクロソフト社のサイトからダウンロードして、アップデートを行なってください。

「セキュリティ・センター」で お使いのパソコンの安全度をチェックする

「セキュリティ・センター」では、お使いのパソコンが、さまざまな外敵からどれくらい安全に保たれているか、多面的に診断します。また、診断結果から、「ウイルススキャンオンライン」のアップデートの必要性や、「ウイルススキャンオンライン」以外のマカフィー・ドットコム製品のご紹介をします。各マカフィー・ドットコム製品の操作も「セキュリティ・センター」のできるのです。それぞれのソフトを起動する必要がなく、便利にお使いいただけます。

2-1

「セキュリティ・センター」の メイン画面の使い方

「ウイルススキャンオンライン」をインストールすると、自動的に「セキュリティ・センター」もインストールされます。

インストール後はパソコンを起動するとタスクトレイに「セキュリティ・センター」アイコンが常駐します。

■メイン画面の表示

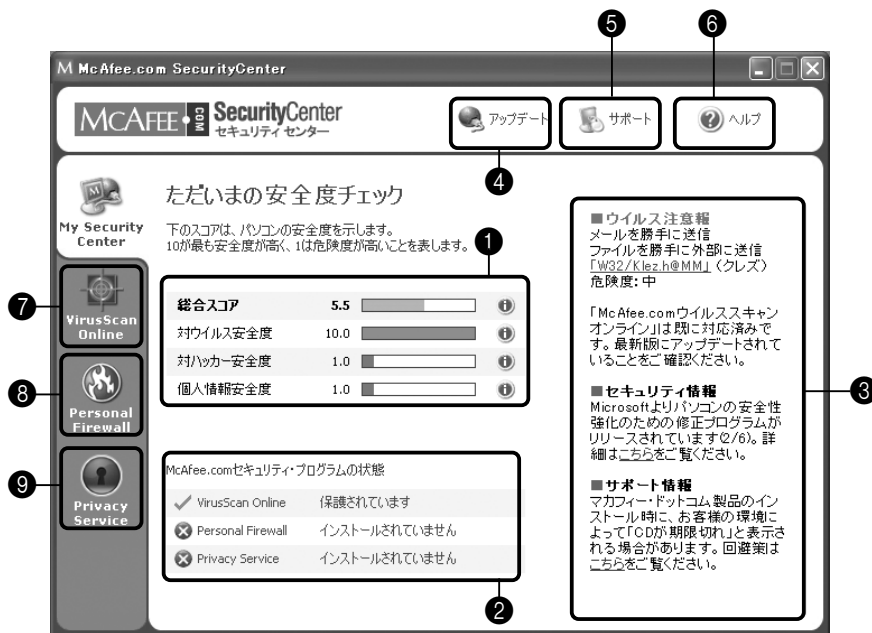
- ① タスクトレイにある「セキュリティセンター」アイコンを右クリックして表示されるメニューから「SecurityCenterを開く」を選択します。



② [McAfee.com SecurityCenter] 画面が表示されます。



■メイン画面の使い方



①安全度チェック

各項目の安全度と総合評価が表示されます。より10に近いほうが安全です。各項目の右の [i] アイコンをクリックすると詳しい評価を見ることができます。

②McAfee.comセキュリティ・プログラムの状態

各製品は1年間が使用期限で、1年を過ぎると継続利用の手続きが必要となります。ここでは、その使用期限が残り100日以内になると残りの期間を表示し、[継続] ボタンが表示されます。

③メッセージボード

最新のウイルス情報や、Microsoft Internet Explorerなどの、セキュリティ関連の修正プログラム情報などをお知らせします。

④アップデート

お使いのマカフィー・ドットコム製品が最新バージョンであるかどうかチェックを行なうことができます。さらに、アップデート方法なども設定できます。

⑤サポート

サポート情報のページを開きます。

⑥ヘルプ

操作方法などわからないときにヘルプを開いて確認しましょう。

⑦VirusScan Online

「ウイルススキャンオンライン」の操作画面に切り替えます。

⑧Personal Firewall

「パーソナルファイアウォール」の操作画面に切り替えます。

⑨Privacy Service

「プライバシーサービス」の操作画面に切り替えます。

■メイン画面を閉じる

- ① [McAfee.com SecurityCenter] 画面の右上 [×] をクリックして閉じます。



安全度の確認と対処方法

お使いのパソコンの安全度を確認し、それぞれの対処方法を確認しましょう。

総合スコア	8.3		
対ウイルス安全度	7.0		
対ハッカー安全度	10.0		
個人情報安全度	10.0		

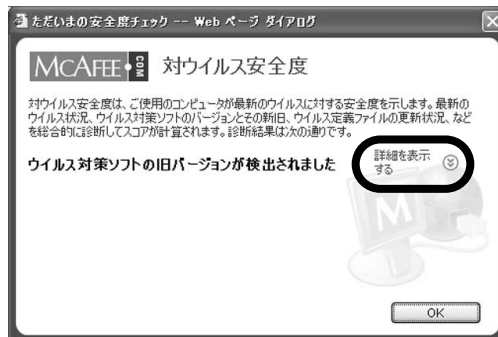
●評価が10の場合

最新の対策が取られています。問題ありません。

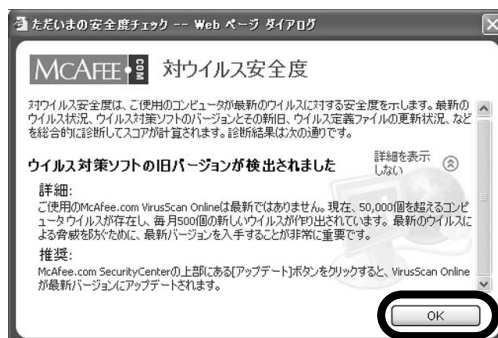
●評価が10未満の場合

安全対策に問題があります。右の [i] アイコンをクリックします。診断結果が表示されます。[詳細を表示する] をクリックします。[詳細]と[推奨]が表示されます。内容を確認して[OK]をクリックします。

診断結果が表示されます。[詳細を表示する] をクリックします。[詳細]と[推奨]が表示されます。[推奨]に対処方法が記載されていま



す。内容を確認して[OK]をクリックします。



最新情報の有無を確認する

最新の情報やアップデートが存在するかどうか確認したい場合、[アップデート] ボタンをクリックし、表示される [McAfee.com SecurityCenterのアップデート] 画面の [今すぐ確認する] をクリックします。



■アップデートの必要がない場合

「ご使用のMcAfee.com製品は、すべて最新です」と表示されます。 [OK] をクリックします。



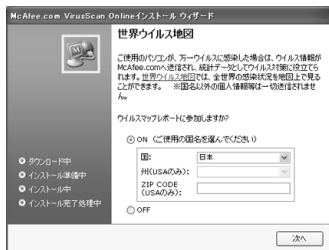
■アップデートが必要な場合

① 「アップデート」画面が表示されます。 [アップデート] をクリックします。

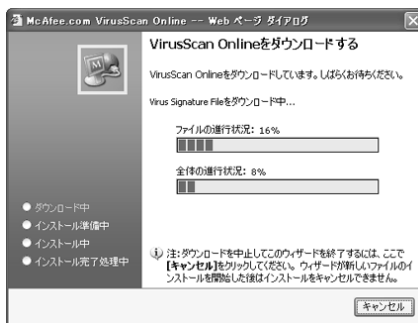


補足

お客様のパソコン環境によって [世界ウイルス地図] の画面が表示されます。
世界ウイルス地図報告機能の ON/OFF を選択し [次へ] をクリックしてください。



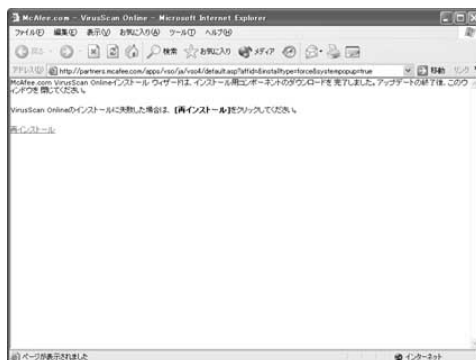
② 「VirusScan Onlineをダウンロードする」と表示されます。アップデートファイルのダウンロードが完了すると自動的にインストールが開始されます。



③ 「VirusScan Onlineウィザードを完了する」と表示されます。[完了] をクリックします。



④ アップデートが終了すると以下の画面が表示されます。正常にアップデートを終了した場合は、この画面の右上の [×] をクリックして閉じてください。アップデートに失敗した場合には、この画面の [再インストール] をクリックして再度アップデートを行なってください。



アップデートの通知方法を変更する

アップデート方法を変更する場合、[アップデート] ボタンをクリックし、表示される [McAfee.com SecurityCenterのアップデート] 画面の [設定] をクリックします。



ここで、アップデートの通知方法を変更します。



【アップデートをダウンロードする前に通知する (推奨)】

自動的にアップデートを探し、アップデートがある場合ダウンロードする前に通知します。

【自動アップデートをオフにする。McAfee.com Servicesのアップデートを手動で。】

自動的にアップデートを探さず、アップデートの有無を手動で確認します。

「ウイルススキャンオンライン」の有効・無効の切り替え

通常インストール後は有効になっていますが、何らかの理由によって「ウイルススキャンオンライン」を無効（ウイルスからパソコンが守られていない状態）にする場合の方法を説明します（必要な操作が終わったら、すぐに有効に戻すことをおすすめします）。

- ① [セキュリティセンター] 画面を開き、[VirusScan Online] アイコンをクリックします。



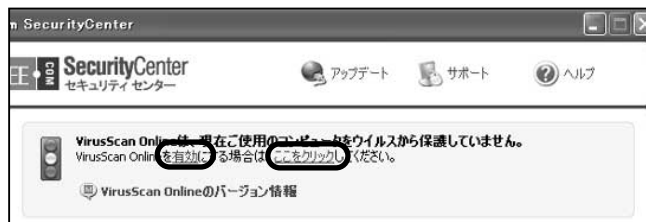
補足

タスクトレイ上の [M]（セキュリティ・センター）マークを右クリックして [McAfee.com VirusScan Online] を選択して、無効（有効）でも変更可能です。

- ② [VirusScan Online]操作パネルが表示されます。画面上部の[無効]または[ここをクリック]をクリックして、有効・無効を切り替えます。



- ② 「現在お使いのコンピュータをウイルスから保護していません」と表示されます。[有効] をクリックすると、元の状態に戻ります。



製品の使用期限と継続使用の方法

ご使用の製品は1年間が使用期限で、1年を過ぎてご使用いただくためには継続利用の手続きが必要となります。ここでは、継続して利用するための方法を説明します。なお、継続利用の手続きは、弊社Webサイトで継続用プログラムを購入して実行するだけで、製品をアンインストールしてインストールといった作業は必要ありません。簡単に実施できます。

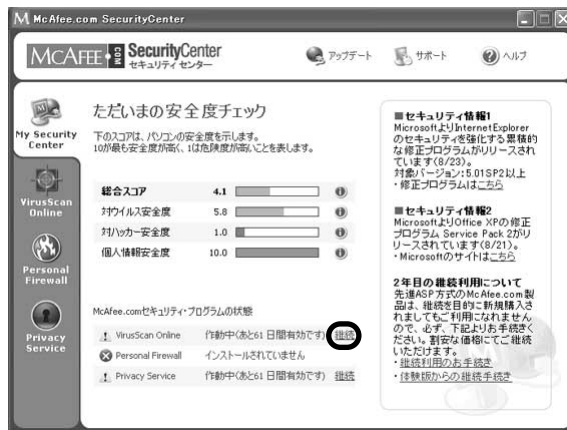
補足

期限が切れると各ソフトの操作画面でも注意がなされます。

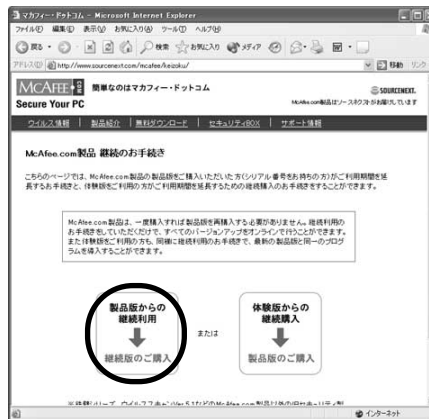
補足

有効期間が残り100日になると「継続」ボタンが現れます。

- ① [セキュリティ・センター] 画面を開き、[McAfee.comセキュリティ・プログラムの状態] の、有効期間が少なくなったり、期限が切れたりしたソフトの右に表示されている [継続] をクリックします。



- ② 「McAfee.com製品 継続のお手続き」ページが表示されます。画面の指示にしたがって継続の手続きを行なってください。



※継続利用のお客様は、必ず「継続版のご購入」を選択してください。

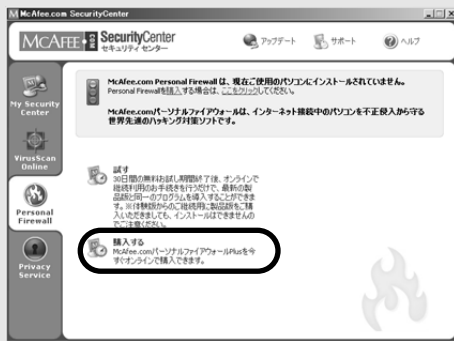
その他のマカフィー・ドットコム製品について

「セキュリティセンター」では、簡単にマカフィー・ドットコム製品の購入ができます。

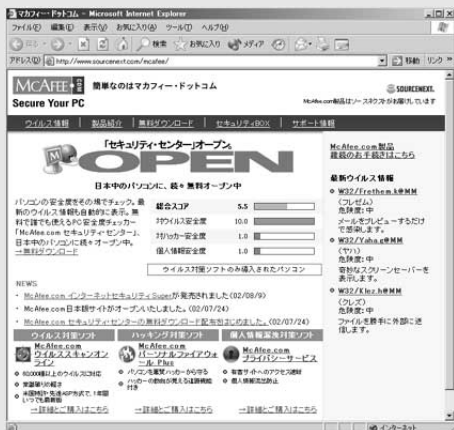
① 購入したい製品のアイコンをクリックします。



② 「購入する」をクリックします。



③ オンラインショップページが表示されます。画面の指示に従って購入手続きを行なってください。



ヒント

30日間無料で試用できる、体験版もご用意しております。体験版をダウンロードする場合は、[ここをクリック] をクリックし、表示される画面に従ってダウンロードしてください。

3-1

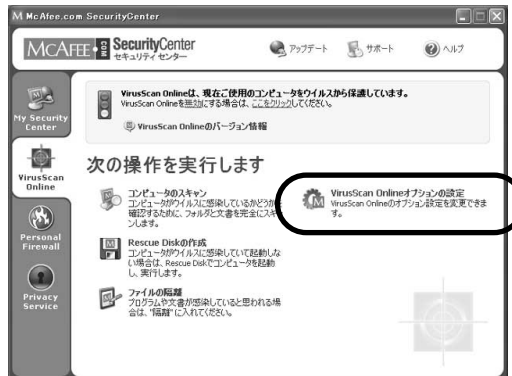
自動でウイルスチェックを行なう (ActiveShield)

インストール後にパソコンを起動するとActive Shieldが起動され、フロッピーやCD-ROMからのデータのコピー、インターネットからのデータのダウンロード、実行ファイルへのアクセス時に、データを自動的にスキャンするようになっています。ここでは、その設定の確認と変更方法をご説明します。

- ① [セキュリティ・センター] 画面を開き、[VirusScan Online] アイコンをクリックします。



- ② [VirusScan Online オプション設定] をクリックします。



注意

eメールの添付ファイルをスキャンするためには、ハードディスク上に添付ファイルをファイルとして保存する必要があります。ActiveShieldでスキャンする場合、タスクトレイにある [McAfee.com McAfee.com SecurityCenter] のアイコンを右クリックして、表示されるメニューから [VirusScan Online]-[オプション] を選択して、表示される画面のスキャンするファイルの種類を、[すべてのファイル] に設定してください。[プログラムファイルおよびドキュメントファイルのみ] をスキャンするように設定している場合は、スキャン機能を使用して、添付されたファイルを開く前にスキャンしてください。

- ③ [オプション] 画面が表示されます。[ActiveShield] タブをクリックします。



ヒント

ActiveShieldの手動での起動方法は、タスクトレイの [McAfee.com Security Center] アイコンを右クリックし表示されるメニューから [VirusScan Online] — [有効] を選択するか、または [スタート] ボタンから [プログラム] — [McAfee.com] — [McAfee.com VirusScan Online] — [ActiveShield] を選択して起動させます。

ヒント

本文「○すべてのファイル」の中で使用されている“?”はワイルドカードです。たとえば mb? は mbx など mb で始まるファイルの種類すべてを表します。

【Windowsが起動するときにActiveShieldを起動する（推奨）】

通常チェックが入っています。チェックが入っていると、Windowsを起動するとActiveShieldが起動し、データのスキャンを実行します。チェックが入っていないと、Windowsを起動しても、ActiveShieldは起動されないのので、手動で起動します。ActiveShieldを無効にするとウイルス感染する危険性が高くなりますので無効にしないようにすることをおすすめします。

【スキャンするファイルの種類】

スキャンするファイルには以下の2通りがあります。

○すべてのファイル

ActiveShield では、「プログラムファイルおよびドキュメントファイルのみ」がデフォルトのスキャンオプションです。デフォルトの設定を選択すると、次の種類のファイルがスキャンされます。

001、386、POT、VBS、APP、002、SYS、OLE、JS、BAT、EX?、BIN、SHS、CSS、BO?、COM、RTF、MPP、HT?、IM?、DOC、OBD、MPT、VBX、INI、DOT、DLL、XTP、OCX、MB?、XL?、SCR、CMD、HLP、QLB、MD?、OBT、OVL、RH、CDR、VXD PP?、DEV、PIF、GMS、MSG、MSO、OPT、SMM、WPD、VIR、DL、PDF

○プログラム ファイルと文書のみ（推奨）

ActiveShield で、すべてのファイルがスキャンされるように設定すると、コンピュータで使用されたすべてのファイルがスキャンされます。この場合、スキャンされるファイルの数は、デフォルトの設定よりも多くなります。

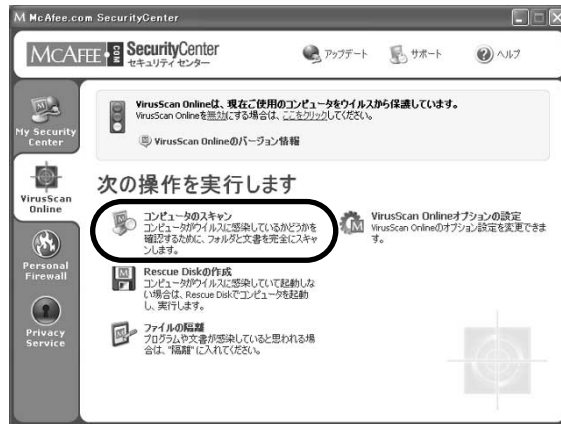
指定した場所のウイルスをスキャンする

お手持ちのパソコンがウイルス感染していないかどうか、スキャンすることができます。スキャンする場所やファイルの種類などを指定でき完全にチェックできます。まず、インストールした後に、すべてのハードディスクをスキャンしてウイルス感染していないか確認しましょう。

- ① [VirusScan Online] アイコンをクリックします。



- ② [コンピュータのスキャン] をクリックします。



- ③ [スキャン] 画面が表示されます。[スキャンする場所] でウイルスに感染しているかどうか確認したい場所を選択します。



- ④ [スキャン オプション] でスキャンする内容を設定します。

【サブフォルダをスキャン】

すべてのサブフォルダがスキャンされます。

【全てのファイルをスキャン】

すべてのファイルがスキャンされます。このオプションを選択しないと、プログラムファイルとドキュメントファイルだけがスキャンされます。スキャン対象がプログラムファイルだけの場合、すべてのファイルをスキャンする場合よりも、処理時間が短くなり、使用頻度の高いファイルを保護することができます。

【圧縮ファイルをスキャン】

ZIPなどの圧縮形式のファイルがスキャンされます。圧縮ファイルをスキャンすると、スキャンに要する時間が長くなる場合があります。

【新しいウイルスと未知のウイルスをスキャン】

ヒューリスティックスキャンを行なうと、ウイルス定義ファイル (DATファイル) に認識されていない新種のウイルスでも、未知のウイルスとして検知することができますが、スキャンに要する時間が長くなる場合があります。

※通常は、すべてのオプションにチェックを入れてください。

⑤設定が完了したら [スキャン] をクリックします。



⑥スキャンが完了すると [スキャンの結果] が表示されます。[感染しているファイルの一覧] にファイルが表示されなければ、そのまま [閉じる] をクリックします。[感染しているファイル一覧] にファイルが表示されたら、27ページの『「ウイルススキャンオンライン」でウイルスが発見されたら』を参照しながら、ウイルスを駆除しましょう。



緊急起動用Rescue Diskを作成する

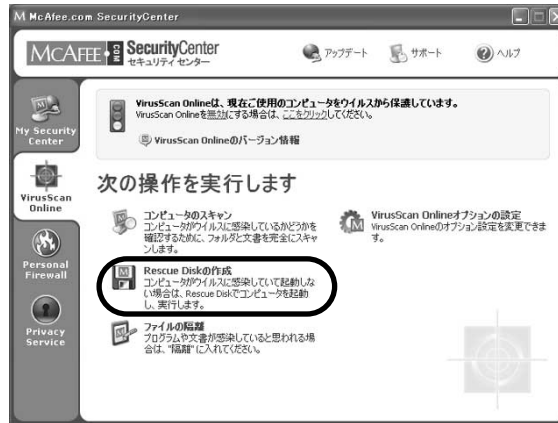
ウイルスに感染して、パソコンが起動しなくなったときに使用する緊急用ディスクを作成しておきましょう。

万が一感染しても作成したディスクを使って起動することができ、大切なファイルを救済できる場合もあります。

① [VirusScan Online] アイコンをクリックします。



② [Rescue Diskの作成] をクリックします。



注意

Rescue Disk を使用できるハードディスクドライブのフォーマットはFATのみです。NTFSでフォーマットされたハードディスクドライブでは使用できませんのでご注意ください。

ヒント

フロッピーディスクドライブが内蔵されていない機種でOS起動後にドライブを接続した場合にフロッピーディスクドライブのドライブレターがAになっていない場合があります。その場合はフロッピーディスクドライブを接続したままOSを再起動してください。

- ③ [Rescue Diskの作成] 画面が表示されます。パソコンのフロッピーディスクドライブに空のフロッピーをセットして [作成] をクリックします。



最新バージョンをダウンロードしますので、インターネットに接続しておく必要があります。

- ④ 最新バージョンのダウンロードを促す画面が表示されます。[OK] をクリックします。

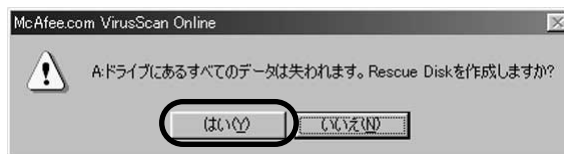


- ⑤ イメージファイルのダウンロードを行ないます。しばらくお待ちください。



フロッピーに保存されているデータはすべて失われますのでご注意ください。

- ⑥ 「Rescue Diskを作成しますか？」と表示されます。[はい] をクリックします。



「フロッピーディスクに書き込めません」と表示されます。書き込み禁止を解除して再度フロッピーをセットしてください。

- ⑦ [Rescue Diskの作成] 画面が表示されます。そのまましばらくお待ちください。



⑦ 「Rescue Diskは検証されました」と表示されます。



⑧ 「Rescue Diskが作成されました」と表示されますので、[OK]をクリックします。



⑨ Rescue Diskが作成されましたので、フロッピーディスクを取り出して、[閉じる]をクリックします。



●最新のRescue Diskを定期的におきましょう。

次回作成時には、以下の画面が表示されます。[作成]をクリックして画面の指示に従って作成してください。



補足

ウイルスの駆除とは、ウイルスに感染したファイルからウイルス部分だけを取り除く処理です。ウイルス駆除ができないウイルスもありますので、重要なファイルは定期的にバックアップを取得しておくことをおすすめします。

4-1

ウイルスを駆除または削除する

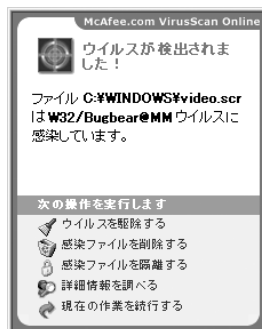
もし、ウイルスが発見されたらすぐ、ウイルスの駆除または感染ファイルの削除を行ないましょう。保存しておく必要のないファイルの場合は、削除することをおすすめします。大切なデータの場合、駆除を試みてみましょう。

- ① [感染しているファイル一覧] にファイルが表示されたら、駆除または削除したいファイルを選択して [ウイルス駆除] または [ファイル削除] をクリックします。

●スキャン中にウイルスが見つかった場合



●他の操作中にウイルスが見つかった場合



② 駆除または削除の確認画面が表示されます。

● 駆除の場合

「駆除が完了しました」と表示されたら、そのファイルのウイルス駆除は完了し、そのままお使いいただけます。



「駆除できませんでした」と表示されたら [OK] をクリックします。削除してもよければ、[削除] ボタンを、大切なデータの場合は [隔離] をクリックしてウイルスが感染活動をしないようにしてください。



● 削除の場合

確認画面が表示されます。[はい] をクリックしてファイルを削除します。



「削除されました」と表示されます。[OK] をクリックします。



補足

Windows MeおよびXPの場合、ウイルスに感染したファイルを駆除も削除もできないことがあります。41ページのQ&Aを参考にウイルスの削除を行なってください。

ウイルスを駆除できなかった場合の対処

検出されたウイルスを駆除できない場合、一旦隔離して、最新のバージョンで再度駆除するなどの対処を安全に行なうことができます。なお、隔離を行なうと暗号化されてファイルの拡張子を変更しますので、誤ってファイルを実行したり開いてウイルスに感染してしまうことを防ぐことができます。

- ① 「感染しているファイル一覧」の駆除できなかったファイルを選択し「ファイルを隔離」をクリックします。



- ② 「隔離されました」と表示されます。[OK] をクリックします。



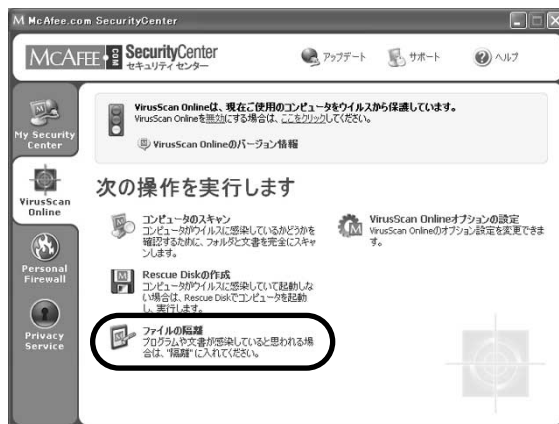
- ③ すべてのファイルの駆除・削除または隔離が終了したら、[閉じる]をクリックします。



ヒント

すべてのウイルスが駆除またはそのファイルの削除・隔離が行なわれないと、注意が表示されます。

④ [ファイルの隔離] をクリックします。



⑤ [ファイルの隔離] 画面が表示されます。隔離したファイルの一覧が表示されます。



隔離したファイルに以下の処理を行なうことができます。

【ウイルスを駆除】

隔離されたファイルに対して駆除を行ないます。

【ファイルを削除】

隔離されたファイルをご使用のコンピュータから削除します。

【元の場所に戻す】

隔離されたファイルを元の場所に戻します。ファイルが安全であることを確認してから実施してください。

第5章 世界のウイルス感染状況をチェックしよう

注意

報告される内容は、ご使用のパソコンのある地域とウイルス名のみです。その他、個人情報は一切送信されません。

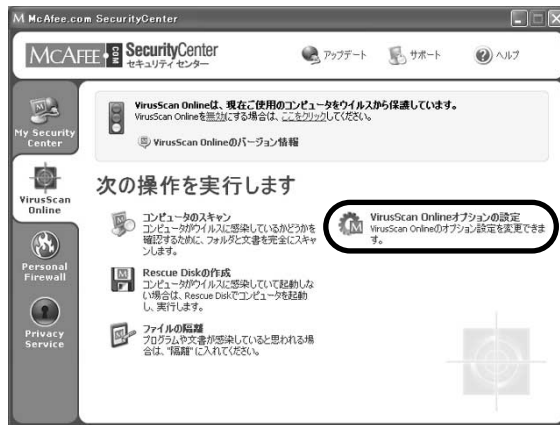
5-1

ウイルス感染状況をサーバーに送信する

世界のウイルス感染状況を把握できる「世界ウイルス地図」をMcAfee.comではご用意しています。ご使用のパソコンのウイルス感染の報告も任意でサーバーに送信することができ、その内容は世界ウイルス地図のデータに反映されます。



① [VirusScan Online] アイコンをクリックします。



③ [VirusScan Online オプションの設定] をクリックします。

注意

国をアメリカ合衆国にした場合のみ指定することが可能です。近い将来日本語版も対応する予定です。

- ③ [オプション] 画面が表示されます。[世界ウイルス地図] タブをクリックします。
- ④ [ON (ご使用の国名を選んでください)] にチェック入れ [OK] をクリックすると自動的にサーバーにウイルス感染状況が送信されます。



世界のウイルス感染状況を確認する

世界のウイルス感染状況を確認することができます。どの地域でどれくらいウイルスに感染しているかを視覚的に確認することができます。

- ① [VirusScan Online] アイコンをクリックします。



- ② [VirusScan Online オプション設定] をクリックします。



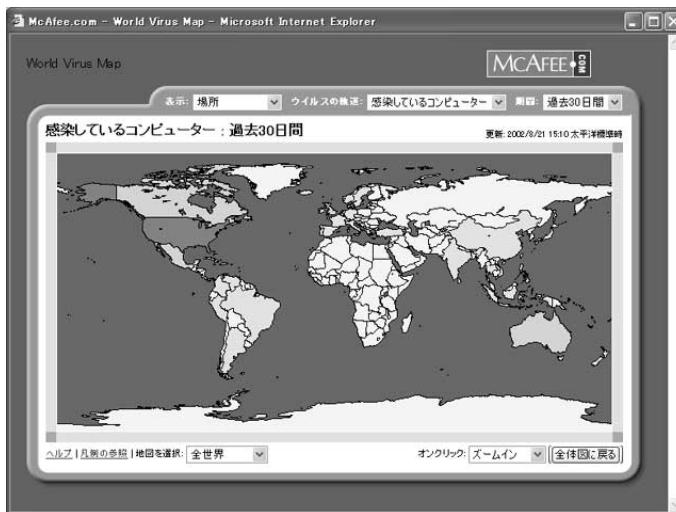
- ③ [オプション] 画面が表示されます。[世界ウイルス地図] タブをクリックします。

報告機能をONにした場合、州およびZIP CODEの指定ができるのは、国をアメリカ合衆国にした場合のみとなります。近い将来、日本語版も対応する予定です。

④ [世界ウイルス地図] をクリックします。



⑤ [World Virus Map] が表示されます。各項目の表示を切り替えて現状のウイルス感染状況をチェックしてみましょう。



1) 「McAfee.comウイルススキャンオンライン」のインストールやアンインストールに関するお問合せ

Q

インストールしようとする、アクセス拒否メッセージが表示されたのですが

A

このような場合「ウイルススキャンオンライン」の再インストールしてください。

- ① [スタート] → [プログラム] → [McAfee.com] → [McAfee.com VirusScanOnline] → [VirusScan Onlineのアンインストール] をクリックし、アンインストールを実行します。
- ② PC再起動後、[C:¥Program Files¥mcafee.com¥VSO] というフォルダを削除します。
- ③ 「ウイルススキャンオンライン」の再インストールを実行します。

この方法でも回避できない場合、インターネットエクスプローラの修復をしてください。手順は以下の通りです。

- ① [スタート] メニューから、[設定] → [コントロールパネル] を選択します。
- ② [アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。
- ③ [Microsoft Internet Explorer 5.x] を選択して、追加と削除 (Windows 2000の場合は変更/削除) をクリックします。
- ④ ダイアログが現れるので [Internet Explorer を修復する] にチェックを入れて [OK] ボタンをクリックします。
- ⑤ マシンを再起動します。

インターネットエクスプローラの修復が完了しましたら以下の設定をしてください。

- ① インターネットエクスプローラのセキュリティレベルを変更します。
[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] → [インターネットオプション] → [セキュリティ] → [レベルのカスタマイズ]

から [カスタム設定のリセット] メニューで [中] を選択し [リセット] ボタンをクリックします。[警告] 画面が表示されますので [はい] をクリックし、[OK] ボタンをクリックします。もし、[中] になっている場合は、[リセット] ボタンをクリックし、[警告] 画面が表示されたら [はい] をクリックし、[OK] ボタンをクリックします。

- ② インターネットエクスプローラの詳細設定項目を変更します。
[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] → [インターネットオプション] → [詳細設定] → ウィンドウ内の [ブラウザ] から [オンデマンドでのインストールを行なう] にチェックを入れ、[スクリプトエラーごとに通知を表示する] のチェックをはずし、[スクリプトのデバッグを使用しない] にチェックを入れてください。
- ③ [全般] から [インターネット一時ファイル] ⇒ [ファイルの削除] をクリックします。[ファイルの削除] 画面が表示されますので、[すべてのオフラインコンテンツを削除する] にチェックを入れ [OK] をクリックします。

Q

インストールしようとする、「HTMLダイアログ…」メッセージの後、何も表示されません

A

このようなエラーが出る場合、以下の原因が考えられます。ブラウザに起因する現象で、ブラウザ自身が正常に動作するための必要なファイルが壊れていたり、変更されている場合に発生します。そのため、ブラウザをバージョンアップするか、修復する必要があります（「ウイルススキャンオンライン」に起因するものではありません）。

■Internet Explorer(以下IE) のバージョンが5.0未満の場合■

この場合はIEのバージョンを下記URLよりバージョンアップしてください。

※なお、バージョンアップ時にIE3.x からIE5.x へアップデートする場合は、直接 (IE3.x→IE5.x) という形でなく、必ずIE4.xを経て (IE3.x → IE4.x → IE5.x) という順番にアップデートを行なってください。

<http://www.microsoft.com/downloads/search.asp?LangID=13&LangDIR=JA>

■ブラウザのコンポーネントが壊れており、修復する必要がある場合■

この場合は下記手順によりブラウザの修復を行なってください。修復後は「ウイルススキャンオンライン」の再インストールを行なってください。

- ① [スタート] メニューから、[設定] → [コントロールパネル] を選択します。
- ② [アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。
- ③ [Microsoft Internet Explorer 5.x] を選択して、追加と削除 (Windows 2000の場合は変更/削除) をクリックします。
- ④ ダイアログが表示されるので [Internet Explorer を修復する] にチェックを入れてOKボタンをクリックします。
- ⑤ マシンを再起動します。
- ⑥ 「ウイルススキャンオンライン」を再インストールします。
もし [Microsoft Internet Explorer 5.x] とインターネットツールが「アプリケーションの追加と削除」内に見つからない場合は、お使いのパソコンメーカーへお問い合わせください。

Q

インストール途中で、「スクリプトエラー」が表示されるのですが

A

スクリプトエラーが出る場合、以下の原因が考えられます。

スクリプトエラーは、ブラウザに起因する現象で、ブラウザ自身が正常に動作するための必要なファイルが壊れていたり、変更されている場合に発生しますので、ブラウザをバージョンアップするか、修復する必要があります（「ウイルススキャンオンライン」に起因するものではありません）。

■Internet Explorer（以下IE）のバージョンが5.0未満の場合■

この場合はブラウザのバージョンを下記URLよりバージョンアップしてください。

※なお、バージョンアップ時にIE3.x からIE5.x へアップデートする場合は、直接（IE3.x → IE5.x）という形でなく、必ずIE4.x を経て（IE3.x → IE4.x → IE5.x）という順番にアップデートを行なってください。

<http://www.microsoft.com/downloads/search.asp?LangID=13&LangDIR=JA>

■ブラウザのコンポーネントが壊れており、修復する必要がある場合■

この場合は下記手順によりブラウザの修復を行なってください。修復後は「ウイルススキャンオンライン」の再インストールを行なってください。

- ① [スタート] メニューから、[設定] → [コントロールパネル]を選択します。
- ② [アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。
- ③ [Microsoft Internet Explorer 5.x] を選択して、追加と削除 (Windows 2000の場合は変更/削除) をクリックします。
- ④ ダイアログが現れるので [Internet Explorer を修復する] にチェックを入れて [OK] ボタンをクリックします。
- ⑤ マシンを再起動します。
- ⑥ 「ウイルススキャンオンライン」を再インストールします。もし [Microsoft Internet Explorer 5.x] とインターネットツールが [アプリケーションの追加と削除] 内に見つからない場合は、お使いのパソコンメーカーへお問い合わせください。

Q

インストール途中で、「スクリプト (ランタイム) エラーライン : 2xx」が表示されるのですが

A

以下の操作でエラーが回避されるか確認してください。

■Windows XP/Me/98/95の場合

- ① [スタートメニュー]から[ファイル名を指定して実行]を選択し、[名前]欄に下記を入力します。
Regsvr32 c:¥windows¥system¥comctl32.ocx
- ② [OK]をクリックすると下記ダイアログが表示されます。
[DllRegisterServer in
c:¥windows¥system¥comctl32.ocx
succeeded]Windows XPの場合は以下のメッセージが表示されます。[c:¥windows¥system32¥comctl32.ocx の
DllRegisterServer は成功しました]
- ③ [OK]を選択して、Windowsを再起動してください。
- ④ 「ウイルススキャンオンライン」をインストールしてください。

■Windows NT / 2000 の場合

- ①[スタートメニュー]から[ファイル名を指定して実行]を選択し、
[名前]欄に下記を入力します。
Regsvr32 c:¥winnt¥system32¥comctl32.ocx
- ②[OK]をクリックすると下記ダイアログが表示されます。
[DllRegisterServer in
c:¥windows¥system¥comctl32.ocx succeeded]
- ③[OK]を選択して、Windowsを再起動してください。
- ④「ウイルススキャンオンライン」をインストールしてください。

Q

インストール画面が真っ白で何も表示されないのですが

A

以下の方法で回避できるか、確認してください。

- ①インターネットエクスプローラのセキュリティレベルを変更します。
[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] → [インターネットオプション] → [セキュリティ] → [レベルのカスタマイズ] から [カスタム設定のリセット] メニューで [中] を選択し [リセット] ボタンをクリックします。[警告] 画面が表示されますので [はい] をクリックし、[OK] ボタンをクリックします。もし、[中] になっている場合は、[リセット] ボタンをクリックし、[警告] 画面が表示されたら [はい] をクリックし、[OK] ボタンをクリックします。
- ②インターネットエクスプローラの詳細設定項目を変更します。
[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] → [インターネットオプション] → [詳細設定] → ウィンドウ内の [ブラウザ] から「オンデマンドでのインストールを行なう」にチェックを入れ、[スクリプトエラーごとに通知を表示する] のチェックをはずし、[スクリプトのデバッグを使用しない] にチェックを入れてください。
- ③上記の設定後、「ウイルススキャンオンライン」の再インストールをしてください。

Q

「アプリケーションの追加と削除」に、「ウイルススキャンオンライン」がないのですが

A

アプリケーションの追加と削除項目には、「ウイルススキャンオンライン」はありません。プログラムメニューから削除してください。
※「ウイルススキャンオンライン」の削除方法
[スタート]→[プログラム]→[McAfee.com]→[McAfee.com VirusScanOnline]→[VirusScan Onlineのアンインストール]をクリックすることで削除できます。

Q

アンインストールしようとするエラーが表示されてアンインストールができないのですが

A

「ウイルススキャンオンライン」の上書きインストールを行い、Windowsを再起動の後、「ウイルススキャンオンライン」がアンインストールできるか確認してください。

Q

Norton AntiVirusやウイルスバスターなどの他社のウイルス対策ソフトと一緒に使うことはできますか？

A

できません。他社のウイルス対策ソフトと一緒に使った場合に著しくコンピュータのパフォーマンスが落ちることがあります。必ず他のウイルス対策ソフトをアンインストールしてから「ウイルススキャンオンライン」をインストールするようにしてください。

Q

「セキュリティ・センター」をアンインストールすることができません。なぜでしょうか？

A

「セキュリティ・センター」は他のマカフィー・ドットコム製品がすべてアンインストールされた後でなければアンインストールできません。マカフィー・ドットコム製品がある場合はそれらをアンインストールしてから「セキュリティ・センター」のアンインストールをしてください。

2)「ウイルススキャンオンライン」のスキャンやアップデートなどのお問い合わせ

Q

アップデートしようとするするとアップデート画面が真っ白で何も表示されません

A

「パーソナルファイアウォール」がインストールされている場合アップデートに必要なアプリケーションが「パーソナルファイアウォール」側で「却下」されている可能性があります。アプリケーションを承認することでアップデート可能になります。

「mcafee.comHTML」、「mcafee.comUpdate」という表記のものがありましたら、承認してください。

また、アップデートの際には、以下の設定を行なってください。

- ①Internet Explorerのセキュリティレベルを変更します。[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] → [インターネットオプション] → [セキュリティ] → [レベルのカスタマイズ] から [カスタム設定のリセット] メニューで [中] を選択し [リセット] ボタンをクリックします。[警告] 画面が表示されますので [はい] をクリックし、[OK] ボタンをクリックします。もし、[中] になっている場合は、[リセット] ボタンをクリックし、[警告] 画面が表示されたら [はい] をクリックし、[OK] ボタンをクリックします。
- ②Internet Explorerの詳細設定項目を変更します。[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] → [インターネットオプション] → [詳細設定] → ウィンドウ内の [ブラウザ] から [オンデマンドでのインストールを行なう] にチェックを入れ、[スクリプトエラーごとに通知を表示する] のチェックをはずし、[スクリプトのデバッグを使用しない] にチェックを入れてください。

③インターネット一時ファイルの削除を行なってください。

④アップデートを実行してください。

Q

「ウイルススキャンオンライン」をアップデートしようとする
と「ページが表示されません」メッセージが表示されます

A

「パーソナルファイアウォール」がインストールされている場合アップデートに必要なアプリケーションが「パーソナルファイアウォール」側で「却下」されている可能性があります。アプリケーションを承認することでアップデート可能となります。「mcafee.comHTML」、「mcafee.comUpdate」という表記のものがありましたら、承認してください。また、アップデートの際には、前項「アップデートしようとするアップデート画面が真っ白で何も表示されません」の1.~4.の設定を行なってください。

Q

DATファイルのバージョンが古いにも関わらず最新DATファイルと認識されてしまいます

A

このような場合は、「ウイルススキャンオンライン」を一度アンインストールしてから再度インストールしてください。

Q

「スキャン」でハードディスクをスキャンすると「VSOSN#1」エラーが表示されてしまいます

A

以前の「McAfee ウイルススキャン」がアンインストールされていない状態で「ウイルススキャンオンライン」をインストールしたために起きている現象と考えられます。現在インストールされている「ウイルススキャンオンライン」と、以前ご使用の「McAfee ウイルススキャン」の両方をアンインストールして、再度「ウイルスス

キャンオンライン」のインストールを実行して現象が改善されているか確認してください。

■「ウイルススキャンオンライン」の削除方法

[スタート]→[プログラム]→[McAfee.com]→[McAfee.com VirusScanOnline]→[VirusScan Onlineのアンインストール]
ウイルススキャンオンラインの削除は、最後にWindowsを再起動してください。

■「McAfee ウイルススキャン」の削除方法

ユーザーズガイドの「古いMcAfeeウイルススキャンを削除する」をご覧ください。

Q

「スキャン」を実行すると、「win98_68.cab」ファイルで止まってしまいます

A

この現象については原因が確定していません。スキャンが止まってしまうファイル名から推測すると「C:\¥windows¥options¥cabs¥win98_68.CAB」は、Windowsのプログラムを圧縮して格納しているファイルになります。この「*.CAB」ファイルは圧縮率が高く、場合によっては、「圧縮ファイルをスキャン」にチェックを入れた状態でスキャンをかけると、スキャンが止まってしまうことがあります。回避方法としては、「圧縮ファイルをスキャン」のチェックをはずしていただく方法でお願いいたします。

【圧縮ファイルのスキャンをはずす方法】

- ①タスクトレイ(画面右下)の [McAfee.comサービス] を右クリックします。
- ② [VirusScanOnline] → [Scan] を選択します。
- ③ 「Scan」画面が表示されます。
- ④ 右側の [スキャンの設定] 項目の [圧縮ファイルをスキャン] のチェックをはずします。

Q

「SuperDAT」ファイルを使用することはできますか？

A

「ウイルススキャンオンライン」で利用することはできません。

「SuperDAT」ファイルは、「McAfee ウイルススキャン5.1」や「鉄壁ウイルススキャン」で使用するファイルになります。

Q

アップデートしようとする時「パスワードが間違っています」メッセージが表示されます

A

ご覧になっているサイトは、以下のサイトであるか確認してください。

<SuperDATダウンロードサイト>

<http://www.sourcenext.com/download/tepeki/sdat.html#>

「ウイルススキャンオンライン」はSuperDATを適用することが出来ません。

ご覧になっているサイトが、日本ネットワークアソシエツ社のサイトの場合は、会社が異なりますのでアップデートファイルのダウンロード時の認証ができません。

<日本ネットワークアソシエツ社のSuperDATダウンロードサイト>

http://www.nai.com/japan/edargpu/ug_vsc.asp

Q

ActiveShieldのアップデート機能はダイヤルアップ接続の環境でも動作しますか？

A

はい、ダイヤルアップ接続の場合1日のうちで最初にインターネットへの接続が確立されたとき、および4時間おきにアップデートされます。

3) 「ウイルススキャンオンライン」のウイルス駆除などのお問合せ

Q

ウイルスに感染しないためにはどのようにしたらよいのですか

A

常にウイルススキャンオンラインを最新のDATに更新しておく必要があります。また、Internet Explorer のセキュリティホールを狙った悪質なウイルスがいくつか発見されています。マイクロソフト社から、セキュリティーホールの修正プログラムが提供*されていますので、ご利用ください。また、セキュリティホールへの対応を行なっていただいた後、メールソフトである「Outlook」や「Outlook Express」の「プレビューウィンドウ」を表示しないように設定することをおすすめします。

【プレビューウィンドウ設定解除方法】

- 1.Outlook Expressの [表示] メニューから [レイアウト] を選択します。
2. [プレビューウィンドウを表示する] 項目のチェックを外します。プレビューウィンドウ表示を利用している場合、自動的に添付ファイルを実行する場合があります。最近のウイルスは、感染させるために自動的に添付ファイルを実行させる悪質なウイルスが存在しております。今後のウイルス対策のために、プレビューウィンドウを表示させないようにすることをおすすめします。

*セキュリティ・センターにて告知された修正プログラムをマイクロソフト社のWebサイトからダウンロードして適用することをおすすめします。

Q

W32/Badtrans@MMというウイルスに感染してしまったのですがどうすればいいのですか

A

このウイルスについては「ウイルススキャンオンライン」のDATファイルを最新にしておくことで感染を防ぐことができます。しかし感染してから「ウイルススキャンオンライン」をインストールした場合はすべてのウイルスを削除できないことがありますので以下の方法で削除してください。

【Windows Meをご利用の方は必ずお読みください】

Windows Meの機能である「システムの復元」機能によってウイルス感染した状態がバックアップされる場合があります。Windows MeではOS自体やアプリケーションの主要なファイルを自動的にバックアップしています。この機能によってウイルス感染

した状態のバックアップが作成されてしまった場合、バックアップファイル内からのウイルス駆除やバックアップファイル自体の削除はできません。そのため、何度もウイルスが発見される状態になってしまいます。ウイルスが感染したファイルを含むバックアップを保持していることは、セキュリティ上望ましいことではないと思われますのでバックアップを一旦削除し、ウイルスを完全に駆除した状態でバックアップを作成しなおすことをおすすめします。

■Windows Meのバックアップ機能の解除

- ① [コントロールパネル] → [システム] → [パフォーマンス] タブから [ファイルシステム] を選択します。
- ② [ファイルシステムのプロパティ] 画面から [トラブルシューティング] タブを選択し、[システムを復元しない] のチェックボックスにチェックします。以上でWindows Meのバックアップ機能は解除されました。

以上の方法でバックアップ機能を解除した後、以下のようにウイルスの削除を行なってください。

■ウイルス駆除方法

- ① Windowsをセーフモードで起動してください（セーフモードの起動方法は、各メーカーにより異なります）。

<Windows Me/98/95 の場合>

Windows起動時のDOS画面（メーカーのロゴ画面が消えた後）で何度か [F8] キーを押すか、端末の電源を入れて[Ctrl]キーを押し続けます。DOS画面で [セットアップメニュー] が表示されますので、[3.Safemode] を選択します。途中でキーボードのタイプを選択する画面が表示された時は [106日本語キーボード] を選択します。

<Windows 2000 の場合>

起動中の [Windows 2000の...[F8]キーを押してください] で[F8]を押すと、拡張オプションメニューが表示されます。一覧の中の [セーフモード] を選択するとセーフモードで起動します。

- ② 以下のレジストリキーの「値」を削除してください。

注意： [レジストリ] の操作はパソコンが起動しなくなるなどの大きな危険を伴いますので、慎重に操作をお願いします。また、以下の操作につきましては自己責任のもとで行なってください。

- ① [スタート] → [ファイル名を指定して実行] を選択します。
- ② [ファイル名を指定して実行] 画面が表示されます。
- ③ 名前欄に「regedit」（半角）と入力して [OK] を選択します。

- ④ [レジストリエディタ] 画面が表示されます。
- ⑤ 以下のレジストリキーの「値」を右クリックして [削除] を選択します。
場所：HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥RunOnce
値： kernel32 = "kernel32.exe"
- ⑥ [レジストリ] → [レジストリエディタの終了] を選択して閉じます。

- ③ Windowsを再起動後、Windowsのシステムディレクトリから、以下のファイルを削除してください。
[Kernel32.exe]、[cp_25389.nls]、[kdll.dll]
ファイルの場所が不明な場合は、検索画面より検索してください。[スタート] → [検索] → [ファイルやフォルダ] で検索しても、検出しない場合は、[④] へ進んでください。
- ④ ハードディスクをスキャンして、検出したウイルスは削除してください。なお、受信したメールでウイルスと思われるものは、削除してください。削除済みアイテムも空にしてください。
- ⑤ Windowsを再起動してください。上記の方法で駆除が完了です。正常に駆除されたかを確認するため、Windows再起動後にハードディスクをスキャンしていただき、ウイルスが存在しているかを確認してください。

Q

ウイルスを駆除したら「Restore」にウイルスが残ってしまいました

A

Windows Me/XPの機能である「システムの復元」機能によってウイルス感染した状態がバックアップされる場合があります。Windows Me/XPではOS自体やアプリケーションの主要なファイルを自動的にバックアップしています。この機能によってウイルス感染した状態のバックアップが作成されてしまった場合、バックアップファイル内からのウイルス駆除やバックアップファイル自体の削除はできません。そのため、何度もウイルスが発見される状態になってしまいます。ウイルスが感染したファイルを含むバックアップを保持していることは、セキュリティ上望ましいことではないと思われますのでバックアップを一旦削除し、ウイルスを完全に駆除した状態でバックアップを作成しなおすことをおすすめします。

■ Windows Meのバックアップをすべて削除する方法

- ① [コントロールパネル] → [システム] → [パフォーマンス] タブから [ファイルシステム] を選択します。
- ② [ファイルシステムのプロパティ] 画面から [トラブルシューティング] タブを選択し、[システムを復元しない] のチェックボックスにチェックします。以上でWindows Meのバックアップファイルは削除されました。

■ Windows XPのバックアップをすべて削除する方法

- ① [スタート] ボタンをクリックする。
- ② [マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選択する。
- ③ [システムのプロパティ] 画面から、[システムの復元] タブを選択する。
- ④ [すべてのドライブでシステム復元を無効にする] にチェックを入れる。
- ⑤ [OK] をクリックすると、確認メッセージが表示されるので、[はい] をクリックする。

以上の方法でバックアップファイルを削除した後以下のようにウイルスの削除を行なって下さい。

■ ウイルス駆除方法

- ① Windowsをセーフモードで起動してください。（セーフモードの起動方法は、各メーカーにより異なります。）
Windows起動時のDOS画面（メーカーのロゴ画面が消えた後）で何度か [F8] キーを押すか、端末の電源を入れて[Ctrl]キーを押し続けます。DOS画面で [セットアップメニュー] が表示されますので、[3.Safemode] を選択します。途中でキーボードのタイプを選択する画面が表示されたときは [106日本語キーボード] を選択します。
- ② ハードディスクをスキャンして、検出したウイルスを削除してください。
- ③ Windowsを再起動してください。

Q

RescueDiskを使用することができません。なぜでしょうか。

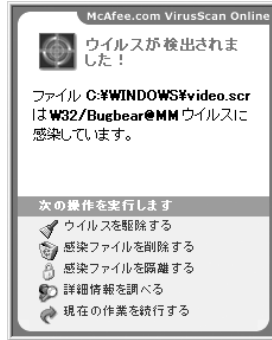
A

RescueDiskはFATでフォーマットされたディスクにのみ対応とな

っています。NTFSでフォーマットされたディスクでは使用できません。

Q

以下の画面が出ました。どう対処すればいいでしょうか。



A

ウイルスを検知した警告画面です。[ファイルを駆除する] または感染しているファイルが削除してもよいものである場合は、[感染ファイルを削除] ボタンを押してください。

Q

ActiveShieldは圧縮ファイルをスキャンしますか

A

ウイルスを含む圧縮ファイルを解凍しようとした場合、ウイルスファイルを解凍先へ展開する直前にActiveShieldによって検知されるので、ウイルスのハードディスクへの書き込みは行なわれず感染を防ぐことができます。

Q

Scanで圧縮ファイル内のウイルスを検知することはできますか。

A

はい、設定の [圧縮ファイルをスキャン] の項目にチェックを入れ



以下に示す圧縮ファイルのフォーマットに対応しています。
ARC, ARJ, CAB, Crypt COM, Diet, GZIP, ICE, LHA/LHZ, LZEXE, MS, PKLITE, RAR, TAR, TeleDisk, ZIP/WinZip

ると圧縮ファイル内のウイルスを検知できます。

4) 「ウイルススキャンオンライン」のその他のお問合せ

Q

他のウイルス対策ソフトを使用していますが、ウイルススキャンオンラインと一緒に使うことはできますか。

A

他のウイルス対策ソフトとの併用はトラブルの原因になりますのでおやめください。「ウイルススキャンオンライン」をインストールする前に必ず他のウイルス対策ソフトをそのマニュアルに従ってアンインストールしてください。

A-Z

あ行

DSL (デジタル加入者回線)

高速インターネット接続の 1 つ。家庭や通常の電話回線を使用した小規模事業向けに用意されたものです。

圧縮

ファイルのサイズを小さくすることです。圧縮すると、インターネットへの接続時間も短縮されます。送信者が圧縮して送ったファイルは受信者が解凍することになるので、同じ圧縮・解凍ソフトを持っていることを確認してから送ると良いでしょう。圧縮するソフトはインターネットからもダウンロードができます。

アップグレード

ハードウェアやソフトウェアを新しいバージョンのものに取り替えて、より高機能なものにすることです。

アップデート

新しいものに「更新」することです。アプリケーションでは、古いバージョンから新しいバージョンに変更することでもあります。

アプリケーション

ワープロや表計算ソフトウェアなどの、ユーザーが目的に応じて使うものを総称して呼んでいます。

アンインストール

一度ハードディスクなどにインストールしたソフトウェアを削除することです。

インストール

Windowsでは「セットアップ」ともいいます。ハードウェアやソフトウェアを、コンピュータに組み込んで使えるようにすることです。最近のソフトウェアは、「インストーラー」がついていて簡単にインストールできるものが多くなっています。

ウィンドウ

ワープロソフトなどを起動すると、窓のような画面が開きますが、これを「ウィンドウ」と呼びます。開いたり閉じたり、窓のようなところからこの名称がついています。

か行

オンライン・ヘルプ

紙でできているマニュアルとは別に、コンピュータの画面上から見ることができるマニュアルのことです。「Personal Firewall」のヘルプがこれに当たります。

拡張子

「拡張子」は、ファイルがどのような形式で作られているのか、どのソフトで作られているのかを表示するものです。ファイル名の最後にある、ピリオドに続く3～4文字が拡張子です。拡張子によって、そのファイルが文書なのか、プログラムなのか、画像なのか、といった情報を得ることができます。

クリック

マウスボタンを一度カチッと押すことです。

ダブルクリックは、すばやく2回続けて、カチカチッとボタンを押すことです。

右クリックは、マウスの右側のボタンを1回カチッと押すことです。デスクトップ上やアイコンの上などで右クリックすると、そのときにできる操作が小さなメニューとなって現れます。

ケーブル モデム

従来のモデムやDSLのような電話回線の代わりにケーブル テレビのネットワークを介してデータをやり取りするモデムのことです。

さ行

再起動

Windowsをいったん終了して、もう一度起動することです。Windowsの[スタート]メニューから[Windowsの終了]を選択し、ダイアログの[再起動する]にチェックすると再起動します。

サーバー

他のコンピュータに自身の持っている機能やデータを提供するコンピュータのこと。他のユーザ間のファイルの共有を手助けするファイルサーバー。電子メールの送受信を一手に引き受けるメールサーバー等があります。

常駐ソフト

Windowsを起動したときから自動的に稼働しているアプリケーションで、タスクトレイにアイコンが入っています。そのアイコンを右クリックして出てくるメニューで終了や常駐解除などの操作ができます。

ショートカット

よく使うプログラムやファイルを簡単に開くことができる機能です。よく使うプログラムのショートカット・アイコンをデスクトップに置くなどしておく、ファイルを探してたくさんのウィンドウを開いたり閉じたりしなくても済むので大変便利です。ひとつのオリジナルから、いくつでもショートカットは作れますが、実体はひとつです。ショートカット自身は分身なので実体ではありません。ですから、ショートカットだけを残して本物のファイルを削除してしまうと、ショートカットは本物を見つけられません。本物を削除したらショートカットも削除した方が良いでしょう。

ダイアログボックス

設定や操作の確認のために、一時的に表示されるウィンドウのことです。ファイルを削除しようとするときに、「ファイルを削除しますか？」という画面が表示されます。これがダイアログボックスです。

ダウンロード

他のコンピュータ上においてある情報を、自分のコンピュータに読み込むことです。

タスクトレイ

タスクバー右側の時計表示がある部分です。ここにアイコンが入っているアプリケーションは、常駐アプリケーションといい、Windowsを起動したときから自動的に稼働しているアプリケーションです。

タスクバー

画面の一番下に表示されている細長いバーのことです。現在実行中のプログラムが表示されています。

ドライブレター

ボリュームラベルとは違う（ボリュームラベルは自分好みの名前が付けられる）ドライブ固有に割り当てられたアルファベット。一般にフロッピーディスクはAドライブ、C以降がハードディスクやCD-ROMドライブになっています。

ドラッグ&ドロップ

画面上のアイコンなどに矢印（マウスポインタ）を合わせてボタンを押したまま画面上で移動（移動することを「ドラッグ」といいます）して目的の場所に来たらマウスボタンを放します（放すことを

「ドロップ」といいます)。そうするとアイコンやファイルが、その場所に移ります。アイコンの場所を変えるだけでなく、ファイルをコピーしたり、文書ファイルをプリンタのアイコンに重ねることで印刷できたり、用途はさまざまです。

トロイ（トロイの木馬）

ゲーム、ユーティリティ、などのアプリケーションを装った破壊的なプログラムのこと。トロイの木馬が実行されると、有効なプログラムの振りをしてコンピュータ システムに危害を及ぼします。

は行

バージョン

同一製品の改訂版を表す数字です。一般的に、数字が大きいほど最新版となります。大抵は「Ver.1.0、Ver.2.0、Ver.3.0」のように数字が増えていき、小さな改訂のときは「Ver.1.0、Ver.1.1、Ver.1.2」となります。

バージョンアップ

ソフトウェアやハードウェアを改訂・改版することです。バージョンアップした製品は、新しい機能を追加したり不具合な点を改善したりしています。

フォルダ

ファイルをしまっておく入れ物のことです。ファイルをそれぞれのグループに分けて、整理して保存しておくことができます。Windowsではディレクトリという言い方もしますが、Windows95からはフォルダと呼ばれるようになりました。フォルダは、必要に応じて自分で作ることができ、自由に名前をつけられます。

ま行

マウント

ドライブに入れたフロッピーディスクやCD-ROMなどをWindowsが認識（アイコンとして見える状態になる）して使える状態になることです。

ゆ行

ユーティリティ

コンピュータをさらに使いやすくしてくれるソフトウェアのことです。「ウイルススキャンオンライン」もユーティリティのひとつです。